

様

(同席者

様)

今回、あなたに受けていただく予定の医療について、以下のように説明いたします。

検査、治療、手術、処置など	MR(MR用造影剤使用)		
診断名 病状			
医療の必要性	MR用造影剤を使用しないで検査を行った場合、病状によっては病変が検出されなかったり、正確な診断が行えなくなったりする可能性があります。		
その他の選択肢 (代替治療など)	造影剤を使用していないMR検査、CTスキャン、超音波検査などがあります。病状や部位によって長所・短所があり、使い分ける必要があります。		
医療の概要	場所	杉田玄白記念公立小浜病院 MR検査室	検査担当医 放射線科医師
	方法	・通常はまず造影剤を注射する前に単純MRを行います。 その画面を検査担当医が見て造影剤を使用すべきかどうか判断します。 ・初めから造影剤を使用することを前提に検査を行う場合もあります。	
	その他	造影剤の注射で身体が熱く感じるがありますが、一時的なもので心配ありません。	
予想される効果	病変の有無・病状などの診断		
危険性・合併症 その対処法	<p>軽い副作用:吐き気、動悸、頭痛、かゆみ、発疹、注射部位の痛み、など (通常は特に治療を要さないもの)・・・1%以下</p> <p>重い副作用:呼吸困難、嘔声、意識障害、血圧低下、腎不全、など (原則として入院治療が必要)・・・約1.9万人に1人 輸液、酸素吸入、昇圧・強心薬、ステロイドホルモンなど治療を行います。</p> <p>遅発性副作用:検査終了後10分以内(まれに数時間から数日後)に発疹、かゆみ、むくみ、吐き気、のどのイガイガ感、咳、冷汗、動悸、脱力感、めまい、など</p> <p>死亡例:体質により約83万人に1人という報告があります。</p>		
	<p>※アレルギー疾患や薬剤アレルギー・過敏症の既往歴がある場合は特に注意が必要です。 ※腎臓の障害があると、造影剤の副作用が強く出たり腎機能が悪化したり、腎性全身繊維症を発症する場合があります。 ※服用中の薬剤によっても副作用の危険性が高くなる場合があります。 ※喘息の既往がある場合は原則として造影剤は使用できません。 ⇒これらにつきましてはあらかじめ医師、看護師にお伝え下さい。</p> <p>※検査中や終了後に身体の具合が悪いときは、すぐにお申し出ください。 ※万一、上記のような副作用が発生した場合は、杉田玄白記念公立小浜病院にて対処します</p>		

平成 年 月 日

上記の説明を行いました。

紹介元医療機関

主治医

上記の説明を受けました。

その上で、杉田玄白記念公立小浜病院

患者氏名

にて検査を受けることに同意します。

※自署をお願いします

代理人氏名(続柄)

※本人の意志が確認できない場合にご記入をお願いします